

令和3年度 指定管理者導入施設 管理運営評価シート（標準例）

1 評価対象施設の概要

施設名称	生駒ふるさとミュージアム			
所在地	生駒市山崎町11番7号			
指定管理者名	株式会社 地域文化財研究所	指定期間	開始日	平成 30 年 4 月 1 日
利用料金制適用区分	利用料金制		終了日	令和 5 年 3 月 31 日
選定方法	公募	評価実施年	指定期間 5 年のうち 4 年目	
設置目的	生駒の歴史を標榜し、市民の皆さまが過去・現在の生駒を思い、未来の都市像を予測して頂くための施設の設定			
主な実施事業等	常設展示、企画展示、特別展示、体験型普及啓発事業、講座、講演会、資料の収集・保存・調査・研究・教育普及等			

2 利用実績

利用区分等	単位	予定(計画・目標)	利用実績	対前年度比	増減の理由等
来館者数 大人	人	-	5,230	+547	
来館者数 子ども	人	-	3,309	+1692	
来館者数 合計	人	8,000人以上	8,539	+2239	
館外事業参加者数	人	1,000人以上	625	+151	
多目的室利用	件	200件以上	339	+187	

3 事業収支

	事業計画	事業報告(実績)	(参考) 前年度実績
収入計 A	23,965,000	24,326,310	29,084,490
指定管理料	22,797,000	22,797,000	28,083,000
利用料金収入 C	145,000	154,515	89,590
自主事業収入	495,000	794,350	555,970
その他(受講料・観覧料等)	528,000	580,445	355,930
支出計 B	22,675,000	23,176,832	28,642,061
指定事業費	22,370,000	22,654,031	28,263,229
うち人件費 D	12,100,000	12,164,952	11,942,591
うち再委託料 E	3,462,000	3,423,583	3,423,583
自主事業費	305,000	522,801	378,832
事業収支 A-B	1,290,000	1,149,478	442,429
利用料金比率 C/A	0.6%	0.6%	0.3%
人件費比率 D/B	53.4%	52.5%	41.7%
再委託費比率 E/B	15.3%	14.8%	12.0%
補足説明(必要に応じて記入)			
指定管理料は変更協定後の額			

※人件費(D)及び再委託料(E)は主な支出内訳のため、DとEの合計額が指定事業費にはなりません。

4 利用者の意見把握状況

利用者の意見把握の実施の有無	有	実施方法	(利用者アンケート・意見箱の設置・その他())
実施結果	意見内容等		対応実績等
	<ul style="list-style-type: none"> 講座で希望する内容について、アンケートで意見をいただいた。 写真展を希望する意見がアンケートに多数寄せられた。 		<ul style="list-style-type: none"> 講師の方と相談し、アンケートで希望が多かった内容で入門講座を実施した。 市制50周年記念事業として写真展示を中心とした企画展を開催した。

5 管理運営状況評価

施設の設置目的の達成（有効性）	
施設の目的や特性等に合致した管理運営（事業計画に則った管理運営、施設の有効活用による設置目的の達成等）	
指定管理者による自己評価	「生駒ふるさとミュージアムの管理に関する基本協定書」、「生駒ふるさとミュージアム管理運営基本仕様書」に基づき、コロナ禍の中、可能な限りの感染防止対策を行いながら、生駒の歴史文化の普及啓発に向けた諸事業をいずれも中止することなく実施することができた。また、「生駒ふるさとミュージアム管理業務特記仕様書」等に基づき、施設の維持管理、古文書や民俗資料などの収蔵資料の保存管理を行った。夏休み期間中、勾玉体験に子どもたちや家族連れでの来館が増え、ミュージアムの存在を知ってもらうきっかけとなった。
市の評価	基本協定書、基本仕様書及び特記仕様書に基づき、登録有形文化財である本施設の維持管理及び施設内の収蔵資料を適切に保存管理しつつ、歴史文化の発信拠点として積極的に普及啓発事業に取り組んでいただいた。市独自の感染拡大緊急警報の発令が長引く期間もあったが、感染防止対策を確実にしながら施設の設置目的に沿った事業を展開し、一定の成果がみられたことを評価している。
市民の平等な利用の確保（平等な利用への配慮、公平で適切な利用者の決定等）	
指定管理者による自己評価	幅広い年代の方に来館いただけるよう、広報いこまのほかに、当館HPやSNS(Twitter、Instagram、Facebook)等の広報ツールを最大限活用し、イベントや講座の年齢層に対応した周知を行った。感染防止対策として多目的室の定員を半数としているため、講座等の応募が多数の場合には、抽選など公平な受講者決定をするとともに、可能な限り、受講いただけるようレイアウトを工夫するなどの対応も行った。多目的室については減免の効果もあって貸室の利用件数が増えており、「生駒ふるさとミュージアム使用許可取扱基準」等を遵守し、貸室の条件をご理解いただいたうえで利用の決定を行っている。
市の評価	比較的シニア層の来館が多い施設であるが、子ども連れの来館者も増え、年齢や目的に応じたご案内をするなど幅広い年齢層に対応した施設運営に取り組まれている。引き続き、貸室定員を半数とした利用制限の中で、感染防止対策のほか工夫もしていただきながら、安心と満足の得られる運営をされている点を評価したい。多目的室の利用件数の増加に対しても、夜間利用への対応も含め、適切に運営されている。
利用者の満足度（利用者の意見把握結果による満足度の状況、意見等に対する取組状況、苦情等に対する対応等）	
指定管理者による自己評価	来館者の満足度や意見・要望の把握のため、通常アンケートのほか、特別展・企画展観覧者、講座・講演会受講者に対して各アンケートを実施している。通常アンケートでは市内からの来館者がほとんどだが、令和2年度に比べ、市外と県外からの来館者が若干増加した。展示希望の声が多く寄せられていた写真展について、生駒市制50周年を迎え、企画展の記念展示として市制以後のまちの移り変わりなど写真パネルを中心に展示を行った。特別展では市内の重要文化財にスポットを当て、「長福寺展」を開催し、仏画や鬼瓦等を展示した。美術に関係した展示でもあったので、その面を主に見学された方も多く、見どころが多い展示だったという内容の感想が多く寄せられた。全体のアンケート結果では、館内展示及びスタッフに対する満足度は「大変満足」49%と「満足」33%の合計82%という高い評価をいただくことができた。
市の評価	講座や企画展等の各事業のアンケート結果では、「大変満足」と「満足」で、いずれも8割前後を占め、満足度の高い実施結果といえる。特に企画展では、来館者のニーズに対応し、市制50周年記念事業として写真展示を中心に市制施行以後の移り変わりをわかりやすく展示し、子どもから高齢の方まで幅広い年代の市民に来館いただくことができた。また、特別展における長福寺本堂の仏画等の美術資料の展示は大変貴重であり、本市に素晴らしい文化財が存在することをあらためて認識いただける機会となった。いずれの展示も本施設の設置目的に合致した企画であり、満足度の高さは両アンケートに寄せられた感想からも十分うかがえるものであり、その成果を高く評価したい。アンケートは来館者の満足度を知り、ご意見を把握する貴重な情報源であり、今後の施設運営や事業展開に大変参考となるものである。今後、新たな設問を設けるなど、更に効果的な活用に向けたアンケートを実施していただき、魅力ある事業企画と来館促進につなげていただきたい。
経費の縮減等の効果（効率性）	
経費の縮減等（経費縮減の具体的な取組、効果等）	
指定管理者による自己評価	ボランティアスタッフにより、イベントや展示の準備、当日の手伝いなど施設運営に協力いただいている。また、作業体験室や多目的室等の空調のこまめな調整、使用者のいない部屋やトイレの節電、温水機器の節電モードなどの日々の省エネ活動のほか、裏紙の再利用や古ファイルの再利用等、光熱水費・消耗品費の削減を積極的に行っている。
市の評価	施設運営にあたっては、ボランティアの方との良好な関係を維持しながらご協力いただき、効率的な運営を継続されているほか、こまめな調整や管理による光熱水費・消耗品費等の節減に積極的に取り組んでいただいている。施設の設置目的に資する取り組みのさらなる向上に向け、経費の削減だけではなく必要などころには経費を投じるなど、引き続きメリハリのある執行をお願いしたい。

収入の増加（収入増加の具体的な取組、効果等）

指定管理者による自己評価

休館やコロナ禍の影響を大きく受けた令和2年度と比較すると、講座や講演会の開催回数も増え、それにもなう受講者数が増加したことから収入の増加につながった。また、利用料金の半額減免の効果もあり、多目的室の利用件数が前年度よりも大きく増えたことにより収入の増加となった。

市の評価

各講座や講演会においては、興味深いテーマの選定や専門性の高い講師陣を招へいすることで、受講意欲や満足度を高める企画をさせていただいており、受講者数の伸びがそのまま収入増加につながっている。特別展の開催期間（R4.2～3）が感染拡大の時期と重なったことで観覧者数が企画展ほど伸びなかったものの、企画内容は高く評価できるものであり、今後もより関心を集める事業を企画実施することで新規来館者及びリピーターを増やし、収入の増加につなげていただきたい。

適正な施設の管理運営（適正性）

施設の管理運営の状況（適正な人員配置、従業員の能力・資質向上、広報活動、環境行動の取組状況、地域との連携等）

指定管理者による自己評価

シフト制の勤務であるため、全員が揃う機会を捉えて館長を中心に学芸員のミーティングの場を設け、ミュージアム内の情報共有や課題検討、事業の企画についての意見交換を行うなど、円滑な施設運営に向けてコミュニケーションを図っている。自己啓発によるスキルアップのほか、他の博物館での研修に参加するなど、専門性の向上に努めている。また、文化財防犯・防火・防災関係者連絡会議に参加し、施設管理に必要な最新情報を得ることができた。

広報活動については、認知度の向上と来館促進に向け、広報いこまのほか、当館HPやSNS(Twitter、Instagram、Facebook)等の広報ツールを最大限活用するとともに、新聞各社やメディアでの広報活動を積極的に行っている。環境行動の取組状況については、「環境行動取組データ」を日々作成し、3か月ごとにSDGs推進課へ提出している。地域との連携については、月1回ボランティア会議で意見をいただきながら連携を図り、展示やお正月イベントの餅花づくり等に協力いただくなど、当館の事業をとともに盛り上げていただいている。

市の評価

ミュージアムの根幹となる学芸業務にたずさわる有資格者のスタッフを配置され、それぞれの専門分野を活かした事業を確実に実施いただいている。引き続き、ミーティングの場を有効に活用しながら、取組の核となる各学芸員の専門性や個性を生かした魅力的な企画の創出や、調査研究の成果共有など、施設の設置目的に沿った事業のさらなる展開を期待している。

広報活動にも積極的に取り組まれているが、さらにミュージアムの活動がわかるよう、今以上の情報発信を意識していただき、来館促進につなげていただきたい。

今後、事業の幅を広げていくためにも、広報周知によるボランティア募集だけでなく、紹介やリピーターへの声かけなど、新たな視点での新規ボランティアの獲得にも積極的に取り組まれない。

自主事業の取組（施設の有効活用による市民サービスの向上への効果等）

指定管理者による自己評価

当館で実施している勾玉づくりは、県下で唯一、常時行える勾玉体験学習の場でもあり、年々参加者が増加している。夏休み前に全小学校の児童へ配布したチラシの効果も顕著で、過去最高だった令和2年度よりも上回る盛況ぶりであった。

その他、切り口を変えた古文書講座や歴史ハイキング、また、博物館の社会的役割の一つである博物館実習の受け入れを2校の大学から行うなど、施設の設置目的に合致した多様な自主事業を実施することができた。

市の評価

勾玉体験学習はリピーターも多く、市内各小学校への周知や口コミから参加者が年々増加し、ミュージアムのPRにもつながっていることを評価している。夏休み期間中に訪れた参加者に向け、「楽しい」だけではなく更に歴史に興味を持ってもらえるような工夫や、保護者世代にも歴史や文化財に関する知見を深めることができる企画と連動することができれば更なる相乗効果が期待できる。

また、学芸員の専門性を活かした事業により、新規の来館者の獲得にもつなげてもらえることを期待したい。

安全管理、危機管理体制等（個人情報保護、事故発生時の対応、危機管理体制等）

指定管理者による自己評価

講座の申込等で収集した個人情報の取扱いなど、「生駒市個人情報保護条例」を遵守し、業務を行っている。事故発生時の緊急連絡体制・事案については「危機管理マニュアル」に基づき、本社とスタッフで共有し、有事に備えている。また、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底し、講座や講演会の定員を半数にするとともに、来館者の手指消毒、検温、履き終えたスリッパのアルコール消毒など、来館者の安全に配慮した管理運営を行った。

市の評価

個人情報保護・管理については「生駒市個人情報保護条例」を遵守しながら細心の注意を払って取組まれており、引き続き徹底した対応をお願いしたい。来館者の安全を最優先に、コロナ禍への対応をはじめとする安全対策については、こまめに市と協議を行いながら対応いただいており、評価できる。安全管理については今後も情報共有や報告を徹底し、気を緩めることなく有事に備えていただきたい。

サービスの安定的な提供（安定性）	
事業収支（自主事業を含む）の状況（事業収支の妥当性、安定的な事業継続等）	
指定管理者による自己評価	
継続的な経費削減に加え、テーマや内容を検討しながらより魅力ある事業を企画し、多数の受講者や観覧者を得ることで黒字の収支となった。今後も施設本来の目的達成に向け、安定的な運営と質の向上を図りながら、来館者から高い満足度を得られるよう努めたい。	
市の評価	
コロナ禍の中で一定の来館者数を維持し、黒字の収支となったことは高く評価できる。リピーターを含めた自主事業の安定的な集客と、生駒市制50周年という節目の企画展や、貴重な展示物を観覧できる長福寺展（特別展）を中心に成果をあげていただいた。リピーターはもちろんのことであるが、新しい来館者層を獲得できるよう、本市の歴史文化に関心を持つきっかけとなる事業企画にも期待したい。	

6 指定管理者の財務の状況

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
資産	37,751,523	68,790,311	64,316,804
流動資産	33,366,665	65,015,900	60,610,669
固定資産	4,384,858	3,774,411	3,706,135
負債	30,934,033	64,726,970	60,225,016
流動負債	10,269,033	9,134,970	10,717,016
固定負債	20,665,000	55,592,000	49,508,000
純資産	6,817,490	4,063,341	4,091,788
資本金	3,000,000	3,000,000	3,000,000
売上高	96,840,096	86,568,785	102,739,897
経常利益	-3,125,676	-2,426,972	303,078

7 指定管理者の経営状況（財務・資産関係指標）

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
自己資本比率 純資産/資産×100	18.1%	5.9%	6.4%
負債比率 (流動負債+固定負債)/純資産×100	453.7%	1592.9%	1471.9%
固定比率 固定資産/純資産×100	64.3%	92.9%	90.6%
流動比率 流動資産/流動負債×100	324.9%	711.7%	565.6%
固定長期適合率 固定資産/(純資産+固定負債)×100	16.0%	6.3%	6.9%
総資産回転率 売上高/資産×100	256.5%	125.8%	159.7%
総資産経常利益率 経常利益/資産×100	-8.3%	-3.5%	0.5%

8 総合評価等（今後の業務改善に向けた考え方）

指定管理者による自己評価

コロナ感染が本格化してきた令和元年度終盤から3年度にかけて、一時落ち込んだ来館者数は徐々に増加傾向に向かっていく。夏休みには、勾玉・土笛体験に、過去最高だった令和2年度よりも更に多くの参加があった。約6割の子どもたちが初めての来館であり、ミュージアムの存在を知ってもらうきっかけとなったことの意義は大きいものとする。夏休み期間中にはホラー展示も行っており、展示室への誘導により昔の文化を知ってもらうきっかけともなり、今後さらに、歴史に興味を持ってもらえるような工夫も考えていきたい。

感染対策を行いながら、主軸である展示に関わる事業は予定通り50周年記念展示(企画展)と長福寺展(特別展)を開催し、学芸員の日頃の調査成果を市民へ還元することができた。

引き続き、市民からのアンケートやレファレンスで得た意見・要望を活用し、ボランティアの協力、支援を得てより充実した展示・事業内容、ミュージアムの管理運営を行っていきたい。

市の評価

コロナ禍にも適切に対応していただきながら、講座や講演会、企画展・特別展など、ミュージアムの根幹となる歴史文化の普及事業に積極的に取り組んでいただいたことを高く評価している。

特に市制50周年を記念した企画展では、市民の方にも展示物のご協力をいただいたことで、より奥行きのある内容となり、観覧される方にも懐かしさや新たな発見など郷土愛を育む一助となったものとする。特別展の「長福寺展」において、本市の文化財を市内外に知っていただく貴重な機会となり、市民や関係者・関係機関とともに施設の設置目的に合致した取り組みが進められていることを高く評価したい。

また、出前授業にも力を入れ、実物の民具を使った昔の暮らしのほか、古い資料を用いながら校区の歴史を学ぶなどミュージアムならではの学びを提供していただいている。

取組の核となる学芸員の育成や調査研究の拡充にも力を入れていただきながら、今後もミュージアムが生駒市の歴史にふれるきっかけや郷土愛を深める拠点となるよう、充実した魅力ある事業展開を期待している。